

豊橋の豊かさを未来へ継承するために

<http://toyo.pbeins.net/>

2011年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。新年が皆様にとって、幸多い年になることをお祈り申し上げます。

昨年、2010年は地方政治に大きな波が押し寄せました。名古屋では市議会リコールを求める署名により住民投票が行われることとなり、鹿児島県阿久根市では市長が議会でのリコールにより市長不在の事態となっています。まさに、首長(市長や知事など)と議会の関係のあり方が問われています。一昨年、国政で政権交代が実現し、有権者が政治への参画の実感を手ごたえとして感じられるようになったことが、民主主義のあり方を問い直す力になっているように見えます。

本来、政治においては、今と将来の両方をバランスよく調和させることが大変重要です。現政権は、今を重視する政策を掲げ、将来のための政策が不十分だったのではないのでしょうか。そのことが、外交問題、財政問題において国民に不信感を抱かせる対応となったものと思われます。まずは地方が、この反省を活かすことで、今を生き抜き、明るい未来を期待できるよう、首長と議会の関係を築くことが必要です。

豊橋でそれができるように、市民の皆さんに市政の現状をしっかりお伝えし、皆さんの声を市長の政策に反映させること。それが、議員の大切な役割です。私の議員としての任期も残りわずかとなりました。2期目に向けて、その役割をしっかりと果たせるように、今年も最大限の努力していきます。



り、東三河に大きな影響を及ぼす恐れが生じている中、東三河の一体感が弱くなっていることが危惧される。

今、東に政令市浜松市があり、西には合併により豊橋より人口の多くなった豊田市があることから、市民の間には、谷間に埋もれ豊橋の存在が霞んでしまっているのではないかと不安を持つ人が多くいる。地域間競争の中で産業の集積と振興をしていくために、まちがしっかりと存在感を示していくことは、大変重要なことと考える。

平成21年東三河広域協議会の資料「広域合併・道州制に関する研究報告書」によれば、東三河が広域合併すれば合併新市の農業産出額は圧倒的な日本一となる。製造品出荷額も政令市中第1位。横浜、川崎、大阪、名古屋、浜松などより上位ということ。これらは、東三河に豊かな経験をもつ人材が豊富であること、蓄積された高い技術があること、三河港や高速道路をはじめとする強力な物流インフラがあることを示すことにもなる。地域間競争を優位にするためのシティプロモーションとしては、非常に効果の高いものとなることが期待できる。

今こそ、東三河としての存在感を高揚すること、東三河全体の利益を最大化することを目指し、豊橋がリーダー都市としての役割をしっかりと果たして、広域合併の推進をすることが必要なのではないか。自らの利益のみの最大化を優先して、全体の利益の最大化を後回しにしたのでは、リーダーとしての信頼は

12月定例会では、平成23年度からの10年計画「第五次豊橋市総合計画」の基本構想について、審議しました(次頁に関連記事)。その他、犬ねこの引き取りを有料化する「保健所及び保健センター条例」の一部変更条例、青少年センター・交通児童館・こども未来館の指定管理者の指定なども議決。補正予算については、人事院勧告に基づく市長、議員、一般職員の人件費、1億6千万円の削減を決めた他、利用者増による当初予算の不充足額の補充、国の平成22年度第一次補正による事業予算など、合計約12億8千万円の追加を決めました。

国の円高・デフレ対応のための緊急経済対策の一環として行われる追加事業の主なもの、公共施設の改修・修繕、道路・河川・公園等の整備、図書館図書・学校図書等の整

一般質問

「東三河のリーダー都市としてのあり方」
[質問]東三河はこれまで、豊橋の強いリーダーシップの下に様々なインフラを築き、76万人余の人々が暮らすことのできる地域となってきた。しかし、環境意識の高まりや技術革新により自動車を中心とする産業構造の変革が起こりつつあ



り自動車を中心とする産業構造の変革が起こりつつあ

失われる。広域合併を進めることが、豊橋がリーダーとして、東三河の生き残りに果たすべき重要な役割ではないのか。認識を伺う。

【答弁】東三河の利益の最大化ということについては、各市町村が利益の最大化を目指せば結果として東三河全体の利益の増大につながる。と考えるが、これを一層高めるためには、連携の強化や役割の分担などによる相乗効果が重要であると認識している。これまで本市は近隣との連携強化をはかる中で産業、地域医療、消防、社会基盤の整備、地域の活性化などさまざまな分野で、東三河全体を視野に入れた取り組みを行ってきた。今後も、東三河の中心都市としての役割を自覚しながら、中長期的な展望に立って一体的な発展を目指した地域づくりを率先して取り組んでまいりたい。

【まとめ】東三河には資源が豊富にあり、これからの厳しい地域間競争を乗り切るために、それをどう活かすか、ということをしっかり考えなくてはならない。広域合併はそれを実現し得る合理的手段である。関係者を巻き込んで合併に向けた議論をスタートさせることができるのは、豊橋市長以外にはない。時期を逸することなく、しっかりとリーダーシップを発揮していただくことを期待する。



基本構想特別委員会

平成32年(2020年)度を目標年次とする第五次総合計画の基本構想は、四つの部分で構成されています。その概要は以下の通りです。

• まちづくりの基本理念

「ともに生き、ともにつくる」

私たち一人ひとりがそれぞれの役割と責任を自覚し、限られた

地域資源を活かしながら、すべての人とともに、地域とともに、時代とともに、自然とともに、そして平和を願いながら世界とともに、さらに夢とともに生きる気概と誇りをもったまちづくりをしていく。

• 目指すまちの姿

「輝き支えあう水と緑のまち・豊橋」

水と緑に囲まれた豊かな自然の恵みの中で、私たちが輝き、互いに高めあい支えあいながら、安心して暮らせるまちの実現を願って設定したもの。

目標年次の人口は概ね37万2千人を予想。

土地利用については、人口が減少に向かうと推計されることから、市内各所の拠点を中心とした集約的なまちづくりを目指すとともに、自然環境に配慮しながら生活・産業基盤や公共交通などの適切な配置と活用を図り、まとまりのある市街地の形成を進める。

総合交通体系については、地域内外の交流や物流を支える広域幹線道路網や港湾施設の整備・拡充を促進するとともに、市中心部に流入する通過交通を分散するための環状道路等の整備を促進する。また、「歩いて暮らせるまち」を実現するため、中心市街地と地域の拠点、地域の拠点と周辺集落等を結ぶ公共交



通を市民、事業者、行政が連携してつくり、守り、育てるほか、安全な歩行空間の確保や自転車を利用しやすい環境づくりを推進する。

• まちづくりの大綱

1. 活力と魅力にあふれるまちづくり
2. 健やかに暮らせるまちづくり
3. 心豊かな人を育てるまちづくり
4. 環境を大切にするまちづくり
5. 安心して暮らせるまちづくり
6. 快適で利便性の高いまちづくり

• 基本構想実現のために

「目指すまちの姿」を実現するためには、市民、事業者、行政が一体となって、自らの役割と責任を自覚しながら、ともに考え、協力してまちづくりに取り組むことが必要であると考える。また、市民の日常生活や経済活動が市域を越えて広がっていることから、常に近隣市町村との連携を視野に入れてまちづくりを進めることが大切。このような自主的で自立的なまちづくりを進める中で、基本構想の実現に向けた取り組みを積極的に推進する。

この基本構想が基本構想特別委員会(12月3日~7日)にはかられ、多くの議員がその内容について質疑しました。豊田一雄は[10年後の人口][政策の新規性][電気自動車登場と産業構造変化][地球温暖化による様々な環境変化への適応][自助・共助の進め方]などについて、実効性を高めるという観点から質疑。新たな行政経営環境の変化に対し積極的に対応することや、自助・共助を具体的に進める方策など、今後策定が進められる「基本計画」の中に盛り込むことを求めました。

※市政懇談会のお知らせ
豊橋市政について、近況を報告し、皆さんのご意見を聞かせていただきます。

• 平成23年2月12日(土)
午後7時~

• 東陽地区市民館
気軽にご参加ください!

豊橋みらいニュース

- 12月議会での一般質問(豊橋みらいは豊田の他4名が質問)
杉浦正和議員
 1. 足腰の強い豊橋農業の実現について佐藤多一議員
 1. 少子化時代の学校経営・施設整備について
 2. 新たな産業の創出と雇用の確保について
 3. 観光振興について

<http://www.geocities.jp/sigimirai/>

坂柳泰光議員

1. 新年度予算編成に向けた取り組みについて
2. 安心・快適で利便性の高いまちづくりへの取り組みについて

鈴木道夫議員

1. 農工商業の総合的な産業振興施策について
2. 中小企業振興助成制度について